



わん[🐾]にゃん通信



2018/12/20 No.13

今年は暖冬の傾向がありますが、その分少しでも気温が下がるととても寒く感じます。病院の猫ちゃん達もヒーターの前から離れなくなりました。一日の中での寒暖差も大きく、人も動物も体調を崩しやすくなるので、気を付けたいですね。

今回のわんにゃん通信は「災害時について（持ち物編）」です。持ち物等は、動物同行避難健康手帳にも記載がありますが、ちょっとした補足や追加情報、避難された方の意見をお伝えします。

<犬猫共通>

・水

水は生物にとって一番大切です。人はお茶などが手に入って水分補給が出来ても、動物には水以外の水分をなかなか飲んでもらえません。避難所に給水車が来ても人用なので貰いづらい、という意見もあったそうです。



・フード

東日本大震災前は3日分といわれていましたが、なかなか物資が届かないことがあり、現在は7日分が目安になってきています。特に療法食の場合は少し多めに用意しておくことが大事です。



・携帯用食器

折りたたみ式のものとかさばらないので便利です。

・最近の写真

はぐれてしまう可能性も十分ありえます。大きくなると写真をとる機会が減ることがあるので最近の姿のものを、更に誰が飼い主かわかるよう家族と一緒に写っているものが望ましいです。



・予備のリードと首輪/胴輪

災害はいつ起こるか予測できません。特に寝ている時だと対応が遅れ、とっさに抱いたりして避難ができて、リードや首輪をつけている時間がありません。避難所で必要なものを聞くと、リードや首輪が多くあげられたそうです。リードや首輪が無いと、移動や繫留、トイレ、気分転換の散歩も難しくなってきます。予備でも名札や迷子札をつけてあげて下さい。



・ワクチン（予防接種）の証明書

証明書のコピーや、犬の場合は鑑札や狂犬病の注射済票の番号のメモがあるといいでしょう。

<犬>

- ・ ペットシート：避難所で便や尿の匂いの苦情が多く、シートの上で出来なくても尿を吸い取って匂いをとるのにも使えます。
- ・ ウンチ袋
- ・ シート（大型犬）、大判風呂敷（小型犬）：スペースの確保や服代わりに使えます。
- ・ カラビナ（繫留用）
- ・ ケージ/クレート：最初の避難の時には持っていけない事が多いそうですが、取りに戻れたり、後々必要になることがあります。



<猫>

- ・ トイレの砂：砂が変わるとしなくなる子がいます。
- ・ 大きいタッパー：トイレの代わり。深型でフタ付きものか、キッチンバット。数回練習させておけばトイレと認識するようになる。フタは匂い予防になります。
- ・ ごみ袋
- ・ キャリーバッグ/大きめのケージ
- ・ 洗濯ネット：網目の大きいもの。動物病院につれていきやすく、注射などの治療もしやすい。多頭飼いの場合はキャリー代わりにもなります。



※フードは様々なタイプがありますが、ドライフードは食べられるようにしておきましょう。災害時に手作り食は用意できなくなりますし、缶などのウェットタイプはドライフードに比べると開けた後の保存が難しい（特に夏は傷みやすく、災害時は冷蔵庫が使えない）です。支援物資のフードもドライフードが多い傾向があり、ウェットタイプが手に入らない場合があります。なので、普段はウェットタイプを食べていても、副食扱いでも構わないので、ドライフードを食べる練習をしてみてください。

震災後には嘔吐、下痢、食欲不振などの消化器症状が多かったそうです。もしストレスが原因ならば、オヤツ（消化のよいものや嗜好性がよいもの）も少し用意しておくといいかもしれません。



必要なものを挙げるとどうしても荷物が多くなってしまいますが、その子その子の生活や性格をふまえて、持ち出しの優先順位をあらかじめ決めておくと動きやすくなります。

今回は災害時の持ち物についての説明でした。少し後のNo.になりますが、続きで

「災害前に出来る事」も発行しますので、今回と合わせて参考にして頂ければと思います。

